会　　　議　　　録

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 令和３年度文化によるまちづくり推進委員会（第３回：第２部会） |
| 開催日時 | 令和３年１１月２６日（金）　１０時～１２時 |
| 開催場所 | コミュニティカフェ　Ｗａｋａｙａｍａ（市内港町８－３） |
| 出席者 | 穐本真一（部会長）、岸田　茂、比嘉朝康 | 委 員 数　６人出席者数　３人欠席者数　３人 |
| 欠席者 | 塩田賢二、縄田五月、中戸千恵 |
| 事務担当課及び職員 | 市民部文化スポーツ推進課市民部：芳司参与文化スポーツ推進課：石田課長、奥 |
| 会議次第 | １　開会２　（次第１）担い手の育成・支援３　（次第２）アートマネジメント４　閉会 |
| 委員（岸田）事務局委員（岸田）部会長（穐本）委員（岸田）部会長（穐本）委員 （比嘉）部会長（穐本）事務局委員（岸田）委員（比嘉）事務局委員（比嘉）事務局部会長（穐本）委員（比嘉）委員（岸田）事務局委員（比嘉）部会長（穐本）委員（比嘉）部会長（穐本）委員（岸田）事務局委員（比嘉）部会長（穐本）委員（比嘉）部会長（穐本）委員（比嘉）部会長（穐本）委員（比嘉）委員（岸田）委員（比嘉）委員（岸田）事務局委員（岸田）委員（比嘉）事務局委員（比嘉）委員（岸田）事務局部会長（穐本）委員（岸田）部会長（穐本）委員（岸田）委員（比嘉）委員（岸田）委員（比嘉）委員（岸田）事務局委員（岸田）委員（比嘉）事務局委員（岸田）委員（比嘉）委員（岸田）委員（比嘉）委員（岸田）委員（比嘉）事務局部会長（穐本）事務局委員（岸田）委員（比嘉）事務局部会長（穐本）委員（比嘉）委員（岸田）委員（比嘉）委員（岸田）委員（比嘉）事務局部会長（穐本）事務局部会長（穐本）事務局委員（比嘉）事務局委員（比嘉）事務局部会長（穐本）委員（比嘉）部会長（穐本）委員（比嘉）　事務局委員（比嘉）事務局委員（岸田）委員（比嘉）委員（岸田）部会長（穐本）事務局部会長（穐本）事務局委員（比嘉）委員（岸田）事務局 | 与えられたテーマは「市民文化活動の充実と支援」「人材の確保と育成」「推進体制の確立と団体の支援」だが、ひとつひとつやっていく手もあるが共通項も多い。一番目につくものとして、推進体制となる財団設立がキーワードだと思う。そしてアートマネジメント。コーディネート機能の専門的な人材もキーワードである。推進体制をどうしていくかは大きな課題なので、多くご意見をいただきたい。担い手の育成支援は、いくつか段階があって、他の部会でもアウトリーチを含めて鑑賞機会を増やしていこうとしている。良いと多くの人が思うだろうが、自分がやってみたいと思った人に対してどういう支援ができるか。誰に教えてもらったらいいのかわからない人が多い。ユーチューブなど便利なものがあるが、知りたい人に対して、どういう支援ができるのか。相談窓口でもいいが、教える側は、個人や若手芸術家や活動団体があるが、それに対しての補助、お金の支援を今はやっていないと思う。大きなものとしてガラスがある。現代ガラス展の継続的な開催という形で、山陽小野田市は文化に対する支援は世間並み以上にやっていると思う。支援のひとつの形として、ミュージシャンのデータベースの整理、レベルに応じて上中下で経験や楽器やジャンル別に管理や整理をして斡旋するというものもある。支援をしているケースは成功していると思う。支援というのは、ガラスの文化を高めるということに成功したということか。ガラスを作りたい作家にどういう支援ができるのか、まだそこまではいっていない。体験はできるけれど。今までの話は本日のテーマの３つの議題が混ざっているので、それぞれひとつずつ話していきたい。ではまず、体験機会の創出について意見をお願いしたい。ガラス体験はガラス未来館で有料なのに毎年多くの方が体験している。他に有料で、例えば楽器関係のヤマハなどの教室や団体もある。例えば舞踊をやってみたい人はどこに行けばいいのか。文化協会には８つの部門がある。部門の中でもオカリナやピアノなど分かれていて、全部で２４団体が加入している。いろんな分野があるので、やってみたいと言われれば紹介している。ホームページにも載せている。先ほど言われたとおり、告知されていないため市民が知らないというのが事実。官として手を差し伸べなくてはならないものと放っておいてもいいものがあると思う。特殊なものについてはなかなか手が届かない。文化協会のホームページがあるといったが、見る人が少ない。どうやったらホームページをみるのか。あること自体を知らない。市民の目に留まるように市の広報に宣伝を掲載してもらえればと思う。ほとんどの人がその活動を知らないと思う。その人たちがどこで知ろうとするかといえば、市のホームページをとりあえず見ると思う。情報発信の告知だけじゃなく、項目ごとにこちらにお問い合せください、などの情報を載せるのが必要と思う。問合せ先があれば、文化協会を紹介できる。市のホームページは敷居が高い。みんなが見るのは広報だと思う。広報は様々な情報があるだけに、字面が多すぎて見たいところに辿りつけないとも聞く。ホームページは各団体がきちんと作ってないので辿りつけないというのがある。ホームページに代わるものでアプリがある。ホームページとアプリは似たようなものだが、違いとしてホームページは受け身だが、アプリは案内ができる。アプリに情報が入れば、位置と案内がつく。アプリを市民全員にダウンロードしてもらえば、そういうことが可能だ。だがホームページは検索機能として、きちんとしたものが必要。それにアプリをプラスする、そして発信するものとしてＳＮＳ、ツイッターやフェイスブックで拡散する。ただ、誰が管理するのかが問題。お金と人件費がかかるが、昔みたいに１００万単位と高額ではなく、一般化され比較的安価で作れるようになった。役所が作ってみんなが使うだろうか。役所は敷居が高い。今の方法はすでに宇部など近隣に前例があり、やっている。積極的に関心がある人は登録しているので、メールなり情報が入ってくる。それは文化にも使えると思う。作って発信するのは誰がするのか。それは、団体がしないといけない。民間に頼むとお金がかかる。昔にくらべて安くなっている。ハロウィンの時、“ネットでモンスターを探せ”という企画があった。それは実行委員会で小野田商工会議所のメンバーがプログラミングをして作った。それができる時代になった。うまくやれば安価でできる、あとはやる気だと思う。それは、今回の課題の一覧でいうと「指定管理者制度の検討」とあるが、それだと思う。指定管理者としてラジオ局はいい存在だと思う。指定管理者というのは、施設の管理面だけではなくてソフトも含めてということだ。例えば文化会館を指定管理に出そうとしたら、施設の管理運営だけでなく、そこでやる文化芸術の振興や情報発信も含めて指定管理の要件として出す。それを受けてくれるところがあるか。一時期、廣田さんが公募で館長をしていた時期があった。ある意味、指定管理で民間がやっていたとも言える。若山公園はシルバー人材センターが指定管理をしていて、今は草刈りだけしているが、本当は年に一度くらいイベントを考えて、公園の啓発や盛り上げもやってもらえれば、と思う。実際にはなかなか難しいと思う。ほかにも竜王山公園やオートキャンプ場の指定管理もあったと思うが、どうなっているのか。今も指定管理は続いている。指定管理の組織内にそうしたアイデアを仕掛ける人がいるとうまくいく。先ほど若い人にやってもらうという意見があったが、できる人はいるのか。それは探すか育てるか、あるいは公募するか。いないことはないと思うし、やってみたいという人はいるはず。具体的に目的というか、どういうことをするのか、ぼんやりとしている。何かしたい時に困った人がいて、どこにいけばいいか分からないという話があったが、探したいカテゴリーが全部そこにあって開けると、すべて引き出せるようなものがあるとベストだと思う。宇部市文化創造財団はそれに近いことをやっている。お金をかけてプロデューサーに頼んでみんなで企画を立ててやっている。文化協会で大変なのは企画を考えること、そして集客をどうするかということ。文化協会の部会で、５，６年前からメンバーに年間企画を立て予算を組んでやりましょうとしても、なかなか出てこないのが実情である。企画実行委員会でもなかなか実行性のあるものが出ない。金額が高いものを出されても無理だし、自分たちでカテゴリーを組んで方向性を決めてやっていきたいところだが難しい。近隣で実行しているところがあるのなら勉強すれば良いのではないか。それはほとんど財団になる。先に財団を造るべき。財団については後に譲るが、マネジメントをしっかりできれば、その中でホームページに載せるなり、文化協会を紹介するなどできると思う。宇部では常駐の財団社員が２０人いる。その人件費だけで１億円になる。その指定管理料で渡辺翁記念会館のソフトのことを含めてすべての運営をして１億円以上のお金を動かしている。どこに行ったらいいかわからない、ホームページを見る人がほとんどいないということだったが、そこを解消するために指定管理者をつくりましょうということか。指定管理者は公募すれば見つかるが、財団となれば難しい。どちらにしても、例えば文化会館で考えると指定管理業者は財団、法人、会社のいずれであっても、要は一定の基盤を持ち、責任を持って受けた上で、管理してくれる組織が望まれる。文化会館は市の文化スポーツ推進課がガラスのことだけでなく全部のことをやっている。文化協会は文化の発信があり、イベントの実施がありでひとつになっていない。すべてを指定管理となればなかなか難しい。文化協会はそれをお願いしたいのかどうかがわからない。文化協会は鑑賞者団体としては貴重な存在と思う。企画や運営で困っているときに、その部分を指定管理業者が助けてくれる。鑑賞者団体には指定管理者の協力が必要となる。市は予算化や文化政策を取りまとめ、マネジメント機能を持った指定管理者が企画運営をして、文化協会は一般会員には会費を払っているから割引して鑑賞機会を提供する、各団体にはもっと支援として頑張れるようにと発表の場を設けるなど、文化協会はそれに徹していく。そういう三者の役割分担や連携の関係ができれば随分変わってくるのではないか。財団でなくて指定管理者でいいのではないか。「財団」という言葉には抵抗がある。財団というのは確かに次の段階だが、ゴールを目指すなら財団をつくった方がいい。特に税法上のメリットが大きく、ここを目指さないと絵にかいた餅になってしまう。市がいくら支援するといっても、期間が限定される、永久にという保証はない。その意味でも財団が必要と思う。指定管理者が利益を出しても問題ない。付加を出しながら自立してくれるのが一番いい。日本全国、財団がやっているのは利益が出ないから。財団化して税制上の処置をとる。公益法人と財団法人の税制上の有益処置があるというのは。音楽関係でいうと今から２２年前、一番最初に公益財団に手を出したのは、声楽家団体の二期会。約１２年たってやっと黒字に転換した。すごく優秀な財団である。東京フィル、読売など財団化して東京の音楽団体はほとんど黒字。これは税制処置を受けているからであり、これが大きい。ＮＰＯではだめか。ＮＰＯでもよい。ＮＰＯ団体として利益を出さなければいい。大量のお金をかければ、来てくれるプロの歌手の質が上がる。私は、ゴールは財団にしないといけないと思っている。「財団」という言葉に、どうしてもお金が掛かるイメージで抵抗があるように思うが、ここでは「財団を含む指定管理者」としておきたい。そこで各市町村は財源としてふるさと納税を活用している。この町は、今は使ってない。基本的には一般財源に入れて財源として活用している。市外の人には返礼品を渡しているが、市内の人からもふるさと納税を入れてもらい、目的として文化芸術に使うことを明確にしておくことで、ある程度は期待できる。ふるさと納税は市内市外問わずできる。自分の市に入れた場合は返礼品がないが、返礼品がなくても恩恵があるということで、他市などではふるさと納税を活用し始めている。宇部の場合はふるさと納税の目的が明確で、彫刻の掃除に使ってもらうよう、また京都ではオーケストラに使ってほしいなど具体的になってきている。するとこの指定管理者に使ってくれということもあり得る。する人がいるのか。１００パーセント頼るという考え方ではないだろうが。現実はほぼ１００パーセント頼ることになる。考えておきたいのは、市の税収は落ちていくわけで、だからそれ以外の財源を考えて活用すべきということ。本市はもう乗り遅れている。この前の役員会でも、企業から毎年一定の協賛金を募れば確保できるのではないかという提案があった。企業の場合は受け手が公益財団法人で、公益財団法人ならそこに寄付をした者が減免処置を受けることができる。だから指定管理者として公益財団法人をつくれば良いということだが、人口６万人くらいの小さい市に財団が必要だろうか。近隣のまちにはあっても良いが、小さいもの、ランクが低くても良いのではないか。指定管理に出す際の選択肢はいくつかあるのではないか。小ぶりの財団をつくるというだけでなく、文化協会も候補の一つだし、宇部の創造財団に山陽小野田市の文化会館もお願いする、あるいは宇部・山陽小野田で財団化しませんかと聞いてみる手もある。それらを現実に進めていかないといけない。今までのところを整理すると、文化協会のあり方の検討については、三位一体がキーワードとなるように思う。鑑賞愛好家団体としての啓発や裾野の拡大と文化団体の支援に特化していく。それと推進組織の存在で、これは指定管理者制度がキーワード。財団は次のステップであり、最終ゴールだが、推進組織が指定管理者として動き始めれば、担い手の育成・支援に具体的に着手し、その原案を市や文化協会にも相談して形にしていく。大体その流れだろうか。すぐに指定管理者ができるかといえば、現実的には２～３年や４～５年かかると思われるので、それまでの期間どうやって過ごすのか。そんなに先なのか。その間は市が繋いでくれればやれそうな気がする。できればすぐやりたいけれど。その間、指定管理について調べて、今やっているところに話を聞いてみたい。文化協会としては早めにやってもらいたい。この話は十年くらい前から出ていたにもかかわらず、実際には何も進まなかったのが現実。財源をどうするのか、仮にふるさと納税を活用するにしても、その取り組みを変えていくとなると、すぐに１～２年はかかる。先ほどの宇部の２０人規模、１億円というのは大きすぎるので、もっと規模を小さくしたらどうか。プロモーターを連れてくるとして、どれくらいのお金がかかるのか。うちの市はどのくらいの規模でするかを公募する前に決めておかなくてはならない。業者はどういうところがいるのかを調べておく必要がある。もうひとつ、アウトリーチの話だが、今文化スポーツ推進課がしている対象は学校など公的な機関だけだが、もう少し民間を含めてもいいのではないか。民間のほうが質がいいかもしれない。アウトリーチの制度を入れて単価を安くするとお客さんが来やすくなる。単価を安くするところに指定管理業者が入ってこないとできない。入場料が安くなると文化協会はもっといろんなことがやりやすくなる。チケッ代が安くなると観客が増えるかといえば、山陽小野田市の場合はそうではない。安くて良いものを見せてもなかなか集客できないし、そして安いのが当たり前になってしまう。なぜアウトリーチのことを進めるかというと、安くて有名な人が来ても文化会館のような大きな会場では集客できない。規模を小さくする必要があるということ。もうひとつ、この町には理科大がある。理科大生にワンコインで行けるコンサートを提供するべきで、これこそが公共性の高い話と思う。理科大に行くことがあるので学生に声をかけるが、ほとんど来ない。それは興味がないものを提供しているからか。やり方が悪いのかもしれないが。理科大では、理系ということもあって学年が上がると実習などで忙しくなり自由時間がなくなるという話も聞く。うちも同じで、なかなか参加してくれない。しかし強引に参加させると、終わった後で来て良かったと言ってくれる。地道に続けて積み重ねていくしかないとも思う。触れる機会を作っていくと興味があるものを見に行く習慣がついていくのではないか。その意味でも、他の部会でも出たが、アウトリーチは公共の施設だけでなく民間の施設等も活用して、という方向性が必要と思う。７市町のイベントでも、ソル・ポニエンテやお寺を利用してのコラボはとても良かった。企画は指定管理者が考え、文化協会が主催し、協会の団体と民間の店が組んでコラボレーションを仕掛ける、といったものを毎月続けてみると変わっていくのではないか。もう一人コーディネートできる人材が必要だと思う。いま現場は現場のことを行い、予算や政策的なことは本庁の文化スポーツ推進課がやっていこうとしている。そうなると、双方をつないで企画を考えていくなどソフト面をする人材が必要となる。市と文化協会と推進組織の三位一体は良いと思う。それぞれの役割を果たしていくということで。これは課題の全部が入っている。**・適切な施設の維持管理について**現状、文化会館は雨漏りがしており、これから改修工事をしていくことになるが、今後、文化会館は単なる公演会場としてだけでなく、文化拠点として交流機能も持つ施設にするべきではないか、という意見もある。他にもやってみてはどうかということがあればご意見をいただきたい。山口市の県民支援センターや山口市支援センターに行くことがあるが、パソコンが置いてあり印刷もでき、会議室があってとても良い。どこが運営しているかわからないが。いろんな団体の活動拠点となる部屋があるということか。ロビーやホワイエ、屋外の寝太郎広場に椅子を置いて、公演を見に来る来ないに関わらず、ギャラリーを鑑賞し、お茶を飲みながら過ごすというイメージ。そうした空間であれば、より多くの人が文化会館に行きやすくなると思う。スタバが出来ると動き方やまちの雰囲気がガラリと変わる。若い人がおしゃれに誰でも自由に入れそうな空間。個人で真似してやっても集まらないがスタバだと集まる。その意味でブランド力は確かに高い。私は、厚狭商店街にある佐々木書店は本が読めて、軽食を出したりして、素敵な空間で好きだったが、今はコロナで変わってしまった。文化会館に何か作るというのは敷居が高い。山口市は商店街にある。駅前とかならいいが。新幹線口から文化会館までの道を何とかしたい。駅前ですよというイメージをつけたい。みなさんが行きやすいようなところで、厚狭商店街にある「杜のまち」、旧道沿いの街並みはとても良い。変わらないまちというのが良くて、青年部が頑張っている。最近流行りのストリートピアノではないが、文化会館のロビーにピアノを置いて、誰でも弾けて、そこでコーヒーを飲みながらおしゃべりするというのも良い。そういうことを指定管理者がお店にお願いして、そこにピアノが置いてあれば、お茶を飲みに行こうかとなる。人の流れが変わってくる。花の海のウィークデーのお昼に行くと、若いママさん達がたくさんいる。子育て支援課などが考えて、そういう広場にして何曜日には子育て相談コーナーがありますよというのはどうか。何曜日にはギターで誰かが歌っていますよというのもお金がかからない。有帆でトランペットやギターを演奏している人がいるので、その人達ならできる。場所を必要としているし、お客さんは若い人、奥さんが多い。それを利用しない手はない。花の海では、ママさん達が初めての人と同席し、紹介しながら子育ての相談をしている。そういう場が必要。それは料飲組合や観光協会との連携なども必要。単独ではなく横の繋がり、複合で攻めていくのが大事と思う。例えば市が委託してこの予算で企画して場も提供してください、企画はお任せしますというのは可能か。可能と思う。予算はたぶん演者にまわるようになるが、例えば月１回１０万円、プラス広報費とＰＡ代（音響代）で５万円、合計１５万円で、各所でやっていくという内容で予算をつけるのは難しいだろうか。今回の新しいビジョンの中に、市の公共施設だけでなく民間の施設を活用してという方向性があれば、それを元に動く。今の予算が急に上がる事はないので、当面は予算の範囲内で３か月に１回など回数を減らして、市内の施設に声をかけてやっていくのはどうだろう。具体的なものを作って始めていかないと、今日の話が雑談で終わってしまう。ふるさと納税で項目の指定を付ければすぐに集まる、数ヶ月で。ふるさと納税は高額所得者が対象となるので、人に紹介してもらい、歩いて説得すると結構な人数が集まる。それが段々浸透していくと増えていく。そんなに大げさな話ではない。予算の話だが、このビジョンに基づいて、その具現化に向けた予算要求をしていく。コーディーネーターの必要性についても、しっかり伝えていきたい。 |